

私からはじめるまち育て

レポート
vol. 3



外部講師
合同会社ありまつ中心家守会社
武馬 淑恵 氏



私からはじめる 歴史と文化

知立駅周辺エリアは大規模なインフラ整備により、まちが大きく生まれ変わりつつあります。新しい知立駅とその周辺地区をどんなまちにしていきたいか、まちのあり方を考え、アクションにつなげるための議論を昨年度から進めています。今年はより議論を掘り下げるため、主要なテーマにまつわる話題提供とディスカッションを通じて、未来の駅周辺を想像し、いまの私たちにできることを考えていきます。

第3回は令和5年10月24日（火）に「歴史と文化」をテーマに計17名で議論を行いました。これまで育まれてきた歴史や文化を参加者間で共有し、これからのあり方について意見を交わしました。

話題提供

歴史と文化

東海道の地域資源を活かしたまちづくりと巻き込み

今回のワークショップの外部講師の話
題提供は、有松の歴史と文化に惹かれ活動するようになった「ありまつ中心家守会社」を運営する武馬さんからお話しただきました。

武馬さんの前職はなんと名古屋市の職員で、名古屋の伝統産業に関する仕事の中で有松絞りに出会ったことが地域との出会いのきっかけであったそうです。その後、有松のことをもっと多くの人に知ってもらいたいという思いから、勤続20年の節目に名古屋市役所を退職。大学院への進学とともに「有松の空き家活用を考える会」や有松・桶狭間観光案内所の勤務をスタートされました。地域との関わりの中で、有松に関わる人を増やしたいという思いから、平成30年8月には「有松関人案内所」の立ち上げと「合同会社ありまつ中心家守会社」を設立されています。「有松関人案内所」は、かつての武馬さんがそうだったように、有松の魅力的なヒトやモノとの出会いのきっかけをより多くの人に提供するためにツアーやワークショップの開催など、市内外で広く活動されています。そんな出会いの機会を通じて、有松で活動したいと思う方たちの実務的な支援をありまつ中心家守会社が務めています。遊休不動産の企画管理運営や、エリア活性化のためのマルシェイベントの開催、ブランディングにつながる広報誌の制作などを行っています。

武馬さんは有松の魅力をこう語ります。「有松には『3つの宝』があります。1つ目は江戸時代の風景が残る町並み。2つ目は有松絞。3つ目は有松絞りの祭礼衣装が特徴的な山車祭り。どれも先人たちが育んだ歴史や文化の賜物であり、もちろん私たちも後世に引き継いでいきたいと考えています」

こうした先人が育んだ宝を今後も活かしていくための活動として、4つのプロジェクトを紹介いただきました。

①アリマツマーケット：有松・大湊・一帯を拠点に開催される、ものづくり文化に触れる体験型マーケット。これは、賑わいづくりと同時に、マルシェ出店者が有松のお店を出すきっかけづくりでもあるそうです。②プレーリーアリマツ：30年後の未来の暮らしや働き方について考えるためのまちづくりワークショップ。その取り組みはともユニークで、5M的思考を用いてあえて飛躍した未来の姿を描いたり、実際にある遊休不動産を拠点とした利活用案の物語を見える化してまとめたりと、未来から逆算した現在のアクションに取り組まれています。③ナゴヤ商店街OPINZ：商店街に立地する空き店舗の再生を目指し、リサーチや企画、事業プランの検討等を行う実践型プログラム。第5回目は有松と内田橋商店街（名古屋市内南区）が舞台。通りの東西の端を盛り上げるようなアイデアで、建物のだけでなく、人が活動したり、人が流れる場を作る試みとして行われています。④Eco's Activism：遊休不動産の活用を通じた賑わいづくり事業として古民家でのレンタルキッチン＆スペースの運営を実施予定。地域の人々と一緒に藍や綿花などを育てるコミュニティガーデンの運営等も準備されています。

今回のお話を通して、「きっかけ」という言葉をよく耳にしました。プロジェクトを通して、有松を訪れた人とのきっかけを作ることや、その成果を見える化した広報物などで、次のきっかけにつなげることで、どちらも大切だと感じさせられました。

地域講師
知立まちづくり株式会社
隅田氏



1人目の登壇者は、地域講師の隅田さん。知立まちづくり(株)の代表取締役であり、ご自身も東海道沿いで学生服などの衣料品販売を営んでおられます。時代とともに変化してきた知立のまちの様子についてお話いただきました。知立のまちの歴史を語る上で欠かせない東海道。慶長6年に池鯉鮒(現知立)が東海道の宿駅として発足し、間屋場が開所されると、旅人たちの旅籠がで、宿場町として大層な賑わいを誇っていたそうです。人や物が行き交う要衝として栄えた知立は、多くの情報が集まる場所であったというお話も印象的でした。

その後、明治22年に東海道本線の鉄道が開通し、大正4年には三河鉄道の碧南・知立間の開通、大正12年には愛知鉄道の有松・新知立駅間が開通しました。このような新しい交通手段の登場により、人々の移動方法は大きく変化し、旅籠などの商いは姿を消していくことになりました。一方、より広域の移動が容易になり、弘法山遍照院への参拝者など多くの人が知立に集まることで、商業が発展し、各所に商店街ができるなど商業の中心地となっていました。

また、昭和20年〜40年に広域バス路線が整備されたこともこの後押しになったと考えられます。高度経済成長期には通勤するまちとなりましたが、昭和50年以降は自家用車の普及により、ショッピングセンター等の開発も進み、商業の拠点は郊外に移っていきましました。今も尚、交通の要衝として年間約1200万人の乗降客数を誇る知立駅ですが、インターネットの普及や土地区画整理事業等により知立駅周辺の商業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しているといえます。

交通手段で人の流れが変化していき、まちの形も変化していくというお話は興味深いものでした。そして、まちの賑わいは、住む人そこでの暮らしや、そのための商業により生み出されていることを考えさせられるお話でした。

まちの歴史と変遷

地域講師
知立山車文楽保存会
本多氏



知立まつりの現在とこれから

2人目の登壇者は、知立山車文楽保存会の本多さん。江戸時代から300年以上の歴史がある知立まつりについてお話しいただきました。知立まつりは知立神社の祭礼であり、元の宿場町であった5町(山町・中新町・本町・西町・宝町)から山車が奉納されていることや、知立神社では春の「知立まつり」と秋の「秋葉まつり」の2つが開催されていることなど、基本的な知識から丁寧に解説していただきました。中でも、知立まつりは「物語のあるからくり」が特徴であり「人形浄瑠璃を山車の上で上演する山車文楽が見られるのは知立だけ」というお話を聴いて、より一層誇らしい思いがしました。

長い歴史を誇る知立神社の祭礼ですが、時代とともに変化している点もあるといいます。大人しか参加できなかった山車文楽は昭和50年頃から「小若連」という形で子どもたちが参加できる様になったり、周辺への配慮から秋葉まつりの打ち上げ花火は中止され手筒花火のみになったというお話は興味深いものでした。

同時に、後継者不足や山車の老朽化、資金の不足など、現在の知立の山車文楽を取り巻く厳しい状況についてもお話いただきました。知立独自の文化を絶やさないためには将来を担う子どもたちへの継承が重要であると本多さんはいます。そのために後継者の育成を目的とした義太夫教室の開催や山車文楽の上演、山車の見学など、知立の文化に触れる機会の創出にも尽力されています。

本多さんの言葉通り、山車文楽は知立独自の素晴らしい文化であり、知立らしいまちづくりを構成する重要な要素の一つです。文化の継承や支援のあり方を自分事として考えるきっかけとなるお話でした。

話し合いの
成果

参加者は班ごとに分かれ、知立駅周辺の「歴史と文化〇〇カ条」を話し合い、まとめた意見を発表しました。

A班 ①山車の商品を作って(マスコットなど)外に発信する

- ②知立まつりを広域に知立全域に拡げて祭り人口を増やす
- ③文化継承のために幼少期から体験する(小中学校で授業や行事に取り入れる)
- ④鉄道高架事業で場所が生まれる。ワークスペース
- ⑤知立の歴史と文化に興味ある方を広域で集め、場所を提供。その方法手段が重要

B班 ①知立グルメで魅力向上②知立まつりの夜練習を巡る。知られざる知立ツアーを企画

- ③近隣地域と歴史・文化イベントのコラボ開催
- ④若い世代や引っ越してきたばかりのファミリー世代も参加しやすく

D班 ①点と線をつなげる②人を育てるきっかけ作り③お金が無いなら頭を使う

E班 ①知立の歴史と文化の点を面に②知立の歴史と文化を知ってもらう

Pick up!
みんなの
共通意見

仕組み、組織、お金
できるところから!

発信する!

デジタルを積極的に
わかりやすい伝え方

武馬先生より

地域間でつながる!
自分たちだけではなく
つなぐ場へ!

関わりしろをつくる
場をつくる

人育て→まち育て→若い人
動く人を応援
集まる場作り
小中学校での学び

歴史・文化をまず知ること
広域で集める
宿場町同士交流

点の魅力をまちに波及
回遊
おもしろツアー
駅前の集まれる場

終了後のアンケート紹介

- ・東海道沿いの町として、有松のまちづくりの事例がとても参考になりました。
- ・駅前がどんな形になっても宿場町であったことは残していきたい。わかりやすく、できればオシャレに残していきたいです。
- ・早速、空き店舗でまちづくりのワークショップを行ってみたいと思いました。

発行日: 2023年11月6日

発行: 知立市市民部 経済課 商工観光係

TEL) 0566-95-0125 (直通)

Mail) keizai@city.chiryu.lg.jp

協力: 大日本ダイヤコンサルタント株式会社、NPO 法人まちの縁側育み隊